

平成23年3月の地震活動及び火山活動について

○ [地震活動]

3月11日14時46分に三陸沖でM9.0の地震が発生し、宮城県栗原市くりはらしで最大震度7を観測しました。この地震により、日本全国で津波を観測し、太平洋沿岸では高いところで8mを超える津波を観測しました。国土地理院のGPS観測結果では、この地震に伴う非常に大きな地殻変動が観測されました。気象庁は、この地震を「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」と命名しました。

3月12日03時59分に長野県北部でM6.7の地震が発生し、長野県栄村さかえむらで最大震度6強を観測しました。国土地理院のGPS観測結果では、この地震に伴う大きな地殻変動が観測されました。

3月15日22時31分に静岡県東部でM6.4の地震が発生し、静岡県富士宮市ふじのみやしで最大震度6強を観測しました。国土地理院のGPS観測結果では、この地震に伴う地殻変動が観測されました。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、世界の主な地震は別紙2のとおりです。

○ [火山活動]

霧島山(新燃岳)では、間欠的に噴火が発生しているものの最盛期の活動に比べ低下した状態で推移しました。このため、3月22日に火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)を切り替え、大きな噴石に対する警戒範囲をこれまでの4kmから3kmへ縮小しました。一方、新燃岳の北西数kmの地下深くのマグマだまりへのマグマの供給は続いており、また、マグマだまりから新燃岳へのマグマの上昇は断続的に続いていると推定され、噴火活動は今後も続くと考えられます。新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石と火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)が継続しています。

また、国土地理院のGPS観測結果では、霧島山周辺で、「えびの」-「牧園」、「牧園」-「都城2」、「都城2」-「えびの」の基線において、新燃岳で1月26日に噴火が発生して以降、2月1日まで顕著な縮みの傾向が見られました。2月1日以降、「えびの」-「牧園」、「都城2」-「えびの」、「牧園」-「都城2」間ではわずかに伸びの傾向が見られます。

桜島では、昭和火口で爆発的噴火を含む噴火活動の活発な状態で経過しました。今後、引き続き活発な噴火活動が継続する可能性がありますので、火山活動の推移に注意する必要があります。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)が継続しています。

三宅島では、やや多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)が継続しています。

諏訪之瀬島では、爆発的噴火を含む噴火が時々発生し、噴火活動は活発に経過しました。火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

新潟焼山、焼岳、伊豆東部火山群では、3月31日に噴火警戒レベルを導入し、いずれも噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)を発表しました。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙4のとおりです。

注1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注2：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成23年3月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2011-goudou0408.html>

注3：気象庁の地震活動資料には、気象庁、防災科学技術研究所及び大学等関係機関のデータが使われています。

注4：地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成23年3月号(平成23年4月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注5：平成23年4月の地震活動及び火山活動については、平成23年5月10日に発表の予定です。